



創立152年

# わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和8年 3月号

児童数376名 文責 澤村幸夫



## 自己実現

すっかり日が長くなり、寒さも少しずつ和らいできました。校庭の桜のつぼみも大きく膨らんできました。3月の祝日といえば「春分の日」です。昼と夜の長さがほぼ等しくなる日です。法律上では、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」とされています。春は植物が芽を出し、動物たちが冬眠から目覚め、新たな生命の誕生を感じられる季節です。春分の日は生き物や自然の大切さを感じながら春の訪れを楽しむ日にしたいですね。

先日は、学習参観日に多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。1年間の自分たちの学びや成長した姿をお父さんやお母さんに観てもらおうと、子どもたちは早くから計画・準備をして当日を迎えました。緊張しながらも最後まで立派な姿を見せてくれました。

タイトルにも書きましたように、学校は、児童が自己実現を図るための基礎を培う場です。人はみな、異なる価値観をもって生きています。それは、教育によって形成されたものです。子どもたちはいずれ、自分で自分の進む道を選択し、自分の力で切り拓いていかなければなりません。学校で行われる教育活動は、その一つひとつが重要な意味をもつものであり、子どもたちの自己実現に向け、有機的に結びつきあっているものです。

人は、目の前の事象に一喜一憂しながら生きています。それは毎日を一生懸命に生きている証拠なのだと思います。「今日はこんなにうまくいった、うれしい」と感じている日もあれば、「なんでうまくいかないのだろう。なんで自分ばかりがこんな目に遭うのだろう」と嘆く日もあります。それでも明日はうまくいくことを期待しながら頑張っているのだと思います。

学校教育においても同じことが言えます。子どもたちも感情や人格、プライドをもって生活していますので、教師の言うことをきちんと受け止めてくれる日もあれば、そうでない日もあります。そして、親も教師も目の前の子を見て一喜一憂します。

目の前のことに一喜一憂することはいけないことではないと思います。しかし、「子どもを育てる」「教育する」ということは、もっと遠くを見つめることだと思います。よく、足元を見ずに、地平線を見つめるという表現が使われます。今現在見せている子どもの姿をとらえ、その姿から将来大人になった時の姿を想像していくことが重要だと思います。また、うまくいなくて苦しんでいることがあったとしても、それは大人になるために必要なことであったり、将来役立つ大きな力になることであったりするのかもしれませんが。周囲の大人がよく考えて関わる必要があります。

自分が望む道に進むことや自分が思い描いた生き方をすることなど、子どもたちの「自己実現」に向けての基礎となる力を小学校時代に育てていきたいと思っています。



## 一喜一憂



わにっこりの  
あいさつ運動

# 挑戦する

## おおつスーパートライ

昨年に引き続き、おおつスーパートライ3分間8の字跳びに挑戦した Ring Second (リングセカンド) が大津市で2位に輝きました。約1年間、自分の時間を割いて、努力を重ねてきました。3分間にかかるメンバーの情熱、優勝を勝ち取りたい気迫のこもった大会でした。当日の様子を動画にまとめましたので、ぜひご視聴ください。

### 8の字跳び

紙面配布のみ表示



期間限定 3/2~3/31



## 防災イベント



6年生が、これまでの1年間で積み上げた防災学習を全校のものにしようと、「防災イベント」を開催しました。各ブースには、下学年の子どもたちがたくさん参加し、6年生は防災について大切なことを伝えていました。実際に体験してもらったり、ゲーム形式、クイズ形式にしたり、お芝居をしたりと、下学年の子どもたちが楽しんで学べるように工夫されていました。

# 夢プロ発表会



「学校夢づくりプロジェクト」の発表会が市役所であり、和邇小学校からは、5、6年の代表者5名が参加し、今年度実施した「地域つながり委員会」の取組を発表しました。

テーマを「防災」に絞り込み、和邇商店街とのコラボ企画、妹子祭りの防災クイズとスタンプラリー、6年生が手作りしたかまどベンチ、1泊2日の防災キャンプの取組を紹介しました。参加した子どもたちは、他校の発表を聞きました。この経験を、次なる活動に活かしてほしいと思います。

## わにっこギャラリーアンケートより

2月3日から約1か月間開催した「わにっこギャラリー」をご観覧いただいた皆様から多数の感想をいただきましたので、その一部を紹介します。

★それぞれの学年らしさのある素敵な作品を見せていただきました。5年生の人権の詩、どれも心にグッとくるものがありました。子どもたちのこの素直な思いがずっと続きますように。

★「わにっこの学校生活」に写っている子みんなが楽しそうで、見ていて笑顔になりました。鳥獣戯画がどの作品にもそれぞれストーリーがあり、もう自分の世界があるんだなと感じました。次のギャラリーも楽しみにしています。

★おじいちゃんと孫でスタンプラリーを楽しみました。良い休日です。

★来場者参加型のゆめコーナーは最高ですね。私もゆめを思いうかべて参加させていただきました。ガチャの取組も素敵ですね。





## 第12弾 「振り返りを促す」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。未来をたくましく生

きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第12弾は、「振り返りを促す」についてです。子どもの脳が急速に発達し、初めて「自分を客観的に見る力」(メタ認知)が芽生えるのが9歳から18歳です。この時期は、これまでから何度も取り扱っている「非認知能力」を伸ばす絶好のチャンスです。そのために大事にしたいことの1つが「子どもに適切な経験をさせること」です。これは、誰もが納得する話だと思います。子どもが失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジできる環境をつくることです。そして、ただ挑戦させて終わるのではなく、もう1つ必要なことは「振り返りを促す」ことです。

みなさんは幼い頃に日記を書いていたか？夏休みに日記を書く宿題を出すことが多いのですが、実は、「日記を書く」という行為は、ある一定の年齢以上になってから初めてできるようになるのです。仮に文字を書けるようになったとしても、幼稚園や保育園の子どもたちは「過去の自分を振り返る」ことが難しいのです。テレビのニュースで、レポーターが小さな子どもに、「今日はどうだった？」と聞いても「楽しかった」という反応はできても「何が楽しかったの？」「なんで楽しかったの？」ということについてはうまく答えられません。これは、脳の中で思考や感情のコントロールを担う前頭葉が、9歳ごろから18歳ごろまでに急速に発達するからです。この時期になると、初めて「自分の行動を客観的に見る力」が芽生えてきます。前頭葉は、集中力や感情のコントロール、意欲、コミュニケーションなどを司る場所で、非認知能力の土台となる部分です。9~10歳ごろを境に、子どもは抽象的な概念を理解したり、科学的・論理的に考えたり、自分を客観的に見たりできるようになります。まさに、非認知能力を伸ばす絶好のチャンスがこの時期になります。

小学生になって、この時期を迎えると、日記が書けるようになってきます。単に出来事を羅列するだけでなく、「なぜ自分はそう思ったのか」「なぜうまくいかなかったのか」「どうすれば次はうまくいくのか」と、出来事を分析して次につなげようとする力ができるようになります。

この「振り返り」こそが重要なのです。たとえば、ある子どもがなわとび大会で勝ったとします。ただ「うれしい！」で終わるのではなく、「今回、どうして勝てたのかな」「毎日必ず30分は練習したから、自信が持てたかも」「前日に早く寝たことが集中力につながったのかもしれない」と勝因を自分の行動と結びつけて言語化できるようになる。これこそが、非認知能力の育成にとって、極めて重要な力です。逆に負けたときや失敗したときも同様です。「ああ、自分には才能がない」と嘆くのではなく、「なぜうまくいかなかったのか」「次はどう準備すればよいのか」という失敗の要因を見出せるようになると、それは自信と成長意欲の両方を高める絶好の機会になります。

学校では、授業の終わりに「振り返り」を行います。授業の前と後で自分がどのように変わったかを見つめるためです。同じく、子どもの「振り返り」を促すコミュニケーションが取れる家庭が「子どもが伸びる家庭」だといえます。あることができるようになった子どもに「すごいね」「おめでとう」と褒めるだけでなく、「どうしたらできるようになったの？」と問いかけてみる、こんな親子の会話がとても大事だと思います。



学校のヒレナガニシキゴイ  
本文との関連はありません。

### 見逃し配信

紙面配布のみ表示



期間限定 3/2~3/31

これまで学校だよりで配信した動画を見逃したという声がありましたので、期間限定で見逃し配信します。